

今年、7月20日から8月5日の17日間、男子16名・女子7名の計23名で、ブリスベンに研修旅行に行ってきました。このコースは、着いたその日（土曜日）からホームステイに入り、次の日の日曜日は終日ホームステイ先で過ごします。みんな、ドキドキの2日間だったようです。お世話になるご家庭のルールを確認し、あくまでも「そのお家で生活する」スタンスです。ホームステイはトータル15日間。英語での会話や生活に慣れるまで、少し大変だったようです。



オーストラリア ブリスベンでの学校生活

作成者：吉田友純 佐木崎聡太 杉本風音

ブリスベン

ブリスベンはオーストラリアの南東にある街で、冬でも暖かく過ごしやすい場所でした。私たちはCavendish Lead High schoolという学校に通い、現地の生徒と同じように生活しました。学校では、バディとして現地の生徒とペアを組み、教室を案内してもらったり昼ごはんを一緒に食べるなど、学校生活を共に過ごしました。オーストラリアの学校は、校舎は高さのない構造となっていて、敷地は日本と比べてとても広いので、1人で歩くとき迷いそうになるほどです。



Hasting s point

Hasting pointとは、バディと一緒にオーストラリアの生態系を観察する学校の企画授業です。陸地では、生き物たちが特殊な環境に適応し、独自の生態系を形成していました。生き物の解説を現地のガイドさんが英語でしてくださり、生き物について詳しく知ることができました。



地面はとても乾燥しており、水はけが良いため、植物にとっては厳しい環境。葉の表面積を大きくして朝露を葉につけるなどの「生きる知恵」が見られました。

ヘスティングポイントの後半では、海に行って海洋の生態系の観察をしました。海といっても、みんなが思い浮かべるような砂浜ではなく、岩の露出した沿岸です。



ここにすむ生物は、潮の満ち引きによって住む場所が影響されるため、場所によってよくいる生物が異なっていました。海水の中には魚だけでなく、エビやカニ、ウニも観察することができ、珍しい生物は籠に入れて共有し、みんなで観察しました。徐々に足場がなくなっていくことで、潮の満ち引きも実感することができました。

Sports day



学校生活の最終日には、オーストラリアの伝統的なアボリジニのスポーツをバディと一緒に楽しみました。日本にはない、スポンジのスティックを使ったゲームやアメフトに似たスポーツをしました。全員が時がたつのを忘れるほど熱中していました。

感想

現地の人たちはとてもやさしく、分からないことも丁寧に教えてくれたので、楽しく学校生活をおくることができました。ブリスベンでの生活は、すべて英語でしたが、現地の方たちが工夫して下さったので困ったことは特になかったです。授業も日本の高校では学ばない範囲まで踏み込んだ科目もあり、今までの理解をより確かなものにすることができました。この研修旅行で学んだ多くのことを、今後の勉強や進路に役立てていこうと思います。

1日のスケジュール

8:30 AM	○車にて、学校に到着。 ○インターナショナルエリアでバディと合流
8:55 - 10:05	Period 1 (1時間目)
10:05 - 11:15	Period 2 (2時間目)
FIRST BREAK	バディと休み時間
12:00 - 1:10	Period 3 (3時間目)
SECOND BREAK	バディと休み時間 休み
1:40 - 2:50	Period 4 (4時間目)
2:50	下校 → Homestayの家に帰宅

オーストラリアの学校と日本の学校とでは、大きな違いがありました。日本では授業が1コマ50分なのに対し、オーストラリアは70分もあり、授業のコマ数が少なくなっています。しかし、英語で難しい授業をやっているからか、あまり長くは感じませんでした。

授業

数学や化学・生物・物理などの理系科目を中心に受けました。日本の授業と違い、**生徒は先生が待機する教室へ向かい、授業を受けます。**グループワークが多いので、英語で会話をしなければならぬので、少し大変でした。でも、現地の生徒も積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたので、助かりました。



生徒が作成したポスター

基本的に平日は、「キャベンディッシュロードハイスクール」という現地の中学高等学校に通い、理系科目の授業に参加します。学校では、順天生徒1人につき現地生徒1人が「バディ」としてつき、学校生活をサポートしてくれます。バディは学校生活での大切なパートナーとなります。

現地の学校は、先生が待つ教室に毎時間生徒が移動するスタイル。学校の敷地も広く、建物が入り組んでいるため、順天の生徒だけでは迷ってしまい、教室にたどり着くことが困難。なので、休み時間のたびに、バディが次の授業の場所に連れて行ってくれるのです。必然的に英語を話す機会が多くなり、バディと仲良くなっていくので、英語を話す環境としては、恵まれているとおもいます。



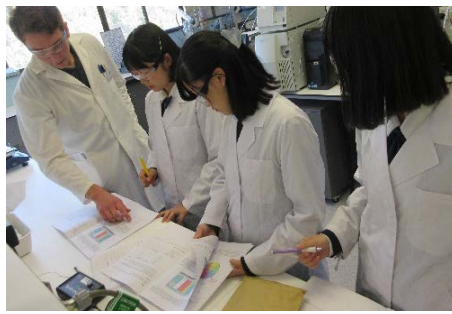
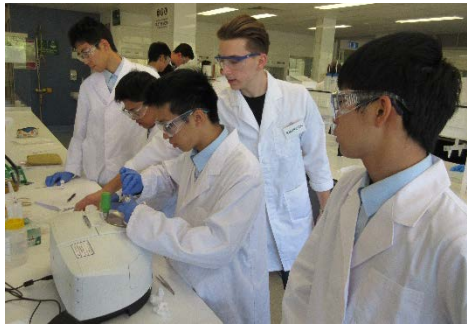
今年のバディは、特にフレンドリーだったように感じました。順天生徒によく話しかけ、一緒に時間を過ごしてくれたので、英語でのコミュニケーションへの恐怖は、あっという間にとれたようです。



学校では、本人が選択した科目の授業に参加するので、時間割は1人ひとりバラバラです。授業内容について、現地の生徒に勇気を持って質問する姿もみられ、遅しく感じました。

バディと共同で実験をする授業やオーストラリア独特の生態系を海や森へ観察しに出かける授業もあり・・・本当に充実した毎日を送りました。

研修旅行2週目には、グリフィス大学に3日間通い、アスピリンの合成実験と犯罪捜査に関する実験を行いました。もちろん、実験書は英語。実験室での質問や説明も英語。必死に英語に食らいつき、実験を体験してきました。



実験は2人組。順天の生徒4～6人に1人ずつ、現地の大学生が付いてくれているので、英語で質問し、実験を進めていくスタイルです。ハードではありますが、高校では扱うことのできない機器での分析など、貴重かつ楽しい経験となりました。

ブリスベン海外研修は、2日間の息抜き（遊園地とゴールドコースト観光）があるとはいえ、理系科目に囲まれ英語に囲まれた、ハードな17日間。私たち教員は、あまり生徒と行動を共にしません。自分自身でホームステイ先のお父さん・お母さん、バディと話して予定を打合せし、行動することになります。きっと・・・色々大変な思いもしていることでしょう。バディやホームステイのお父さん・お母さんとの涙の別れも忘れられない思い出だと思います。この経験が、バディやホームステイの方々との繋がりとなり、生徒たちの将来に生きることを心から願っています。

